短 報

廣 島 縣 の 土 地 開 発

西 村 嘉 助

近世以後における広島県の土地開発を数枚の分布図によって概観し、その時代的地域的な相違を見ようと思う。

1 集落の成立 近世以後に成立した集落で筆者の知り得たものを3期に分って第1図に示す。第1期は明治維新以前、第2期は太平洋戦争前、第3期は戦後とする。図によって先ず知り得ることは島嶼沿岸部を除いた山地部には近世以後成立の集落が少いことである。即ち山地部の集落は殆ど全部が中世或はそれ以前に起源をもつとい

第1図 集 落 の 成 立

うことである。これに反して島嶼沿岸部には近世以後成立の集落が多い。勿論記録にも明かなように島嶼沿岸部にも中世或はそれ以前に起源をもつものも多いのであるが、山地部に比較すると比較的少数で、新しい集落の比率が高い。以上のことは時期別にした3期を通じて同じ傾向を示しており、中世以前と近世以後との間には集落成立の地域に大きな変化があったことが分る。

近世成立の集落で最大なものはいうまでもなく広島であり、それにつぐものは福山である。この2者において容易に分るように干拓によって新開の造成されたことが沿岸部における集落の成立と深い関係がある。また沿岸部の集落には商業的な意味をもつものが多い。これも近世において瀬戸内海海上交通の進展と考え合せるならば、沿岸島嶼部における新しい集落の成立の幾分かが、全く商業的な意味によるものを含んでいることは容易に了解できる。全く港市として成立したものの例として御手洗・鹿老渡を挙げれば充分であろう。広島・福山等の都市が商業的機能をもっていることはいうまでもない。近世成立の山地部の集落は多く間隙充塞的な意味をもつもので、農業集落としては既に他に比べて悪い立地条件のもとに成立した。これらのうちの二三のものが典型的な街村の形態をもっていることは注目値する。例えば比婆郡の三坂、賀茂郡の十文字・三升原等である。

明治以後の第2期に成立した集落は大体島嶼沿岸部に限られており、農業地域の間隙充塞的なもの及び都市化の拡張部としてのものが多い。瀬戸内海の商品農業化に従って新しい耕地の開墾が進み、集落の出来得る間隙には新しい集落が成立した。瀬戸内海の島嶼部が人口過剰に転じたのはこの時期からである。

戦後の第3期の新集落はすべて開拓団という形で行われたもので、山地部においても数個の新しい農村ができたし、沿岸島嶼部においても多数の開拓農村が成立した。これらの村は周辺の村々に比べれば立地条件が悪く、競争的位置において存続せしめる為にはハンディキャップを資本的に技術的に埋める必要がある。

各個の集落の開発については既に各種の研究もあり、筆者も二三のものについて調査を行っているので詳細は後報する予定である。

2 石高・耕地面積の増加 新成立の集落については前節で概観したが、一般的にどのような地域に土地開発が進展したか、主として石高・耕地面積の増加によって概観しようと思う。

第2図は元和5年(1619)から芸藩通志(文政初頃, 1820頃)に至るまでの各村の石高増加率の分布である。広島領以外は比較すべき数字を得ない為省略する。各村の石高というものは検地の度毎に変化するもので、耕地面積が増加しても直ちに増加するものではないので、時期的に或程度ずれがあるが、田畑の別や地力の下下も勘定に入れているので、土地生産力のより適確な表現と考えられる。この200年間に於いて石高の増加はどのような地域にお

第2図 石高の増加 (1619~1820)

第3図 耕地の増加 (1820~1921)

こったであろうか。石高が 100%以上増加した所は広島・海田・広・竹原の四ヶ所であり、すべて干拓によって新開を得た所である。50%以上増加した所は島嶼から山地にかけて散在しているが、くわしく見るとこれも、干拓や河川の改修によって水田の得られた所に多い。大田川下流が石高を増加しているのは河川改修の結果であり、向島・因島などは干拓によるものである。竹原・向島・五日市等の石高増加には干拓によって塩浜をつくったことも大いに寄与している。双三郡の西部にまとまって減石した地域があるがこれは多分川荒れによるものであろう。中国山地の狭い峡谷を下流にもつ江川が、上流に屢々洪水による冠水の害をあたえることは現在も同様である。脊梁山地にも開発が進んでいる状態は明かであるが、開発の重心が沿岸部にあることは明瞭である。

第3図は芸藩通志（文政初頃1820頃）から大正10年（1921）に至るまでの耕地増加率の分布である。これでも旧広島藩以外の地域は省略した。主として明治時代を中心とする百年間の耕地増加である。この時代は日本の第一次産業革命の時期を含んでおり、広島県でも一部に都市化・工業化がかなりみられた。広島市もこの時期に庚午新開、宇品新開を開いたのであるが耕地面積は減少している。第2図にみたように著しい石高の増加を示した沿岸の干拓地はこの時期には多かれ少かれ都市化が行われ、耕地面積の増加はかえつてその周辺よりも少ないという場合が多い。大田川の川筋のような所は耕地が近世において既に充分開発されていた為か、第3図においては周囲の山地よりも増加率が低くなっている。沼田川・可愛川等でも同様のことはいえる。この時期において耕地面積が 100%以上の増加を示したのは山県郡西部の山地、佐伯県南部の山地、安芸郡陸地部南部、賀茂郡・豊田郡沿岸部等である。厳島を除く島嶼部全部 100%以上の増加率を示し、部分的には 300%以上即ち耕地面積が4倍以上になった所も多い。この時期における土地開発の重心は明かに島嶼部にある。陸地部においては近世において停滞状況にあった所に土地開発が進展している。

第2図と第3図とを比較すれば近世における農業生産の停滞と明治期における発展とを容易に対照し得るであろう。細かく見ればその地域による発展が時代的なずれを示していることを知り得るであろう。

大正10年（1921）以後、昭和22年（1947）に至るまでの耕地の増加した地域を示したのが第4図である。戦後の耕地面積の数字は一般に低く見積られているということ

第4図 耕地の増加 (1921～1947)

図においては田の増加した地域・畑の増加した地域・両者共増加した地域を区分して示した。この図においては耕地の減少が広範な地域を占めているのであるが、この中には数字面だけの減少もあることを考慮しても、或程度は実際の減少を示すものであり、耕地の増加が現在の技術の段階において限度に達していること及び都市化・工業化によって積極的に耕地が減少せしめられていることを読みとり得る。

3 人口の増加 近世における人口の増加を地域的な分布図として示し得る資料は現在見出し得ない。浅野図書館にあったといわれる正徳5年広島領内戸口調査書等の記録があれば興味ある結果を得ると思うのであるがしかたがない。福山領だけを宝永8年(1711)と文化13年(1816)とを比較しその増加率の分布図をつくると第5図になる。山地部に減少・沿岸部に増加していることがはっきり分る。沿岸部でも松永附近・浦崎・百島・横島・福山附近の増加

であり、比較するのは少し不当であるが、そういう条件を考えに入れても増加を示す地域は或はより一層の増加を見た地域であるかも知れない。この図によって耕地の増加が現在どの地域に進行しているかということ

第5図 人口の増加
1711～1816 (福山領のみ)

は50%を超えている。広島領についても同様の状態を示したものである。広島領において各種の資料より得た数字を第1表に示す。第1表によっても沿岸部島嶼部の人口の著しい増加を知り得るであろう。近世における人口の増加は大体土地の開墾と平行しているといえるようであるが、商業都市として発展してゆく所では土地開墾は人口集積にとって第2義的な地位になる。このことは明治期になると更に著しい。

第6図は広島領は芸藩通志（文政初頃、1820頃）福山領は文化13年（1816）からいずれも明治21年（1888）に至る人口増加率の分布図で殊に沿岸部島嶼部の人口増加と備後北部の人口増加が著しい。この時期は都市においても新興の都市と古い都市とが入れかわりを示した時期で、尾道・三原などの人口増加は比較的低い。新興の都市といっても未だ工業的發展は見られず、主として商業的なものである。農村においても封建的な制限が解けて新しい発展時期に入った所もあり、旧福山領の山地部も人口増加に転じている。しかし一般的には次の第7図に見るような産業革命期の人口移動は見られない。土地開墾と人口の増加とも特に平行的な関係は見られないが、一部では人口の増加が新しい土地開墾を促した様子もある。

第6図 人口の増加（18¹⁶/₂₀～1888）

この時期においても土地開墾は部分的に進捗し、その部分ではわずかに人口の減少を

第7図は明治21年（1888）から大正9年（1920）に至る人口増加率の分布図で、産業革命期における人口給源としての地位をはっきり示し、人口減少地域が著しく広範な地域を占めている。

第1表 近世における人口増加の例

	17 世 紀		18 世 紀		19 世 紀		100年間ニ 換算シタ 人口増加率	資料
	人	戸	人	戸	文政初(1820頃)	戸 人 (714)		
大 竹	正保 4 (1647)	341 (90)			文政初(1820頃)	3163 (714)	4700%	広島県史
広 島	寛文 (1670頃)36142(3504)				"	49743 (6545)	25	"
鹿 川	元和 (1620頃) ... (15)		宝曆 (1760頃) ... (83)		"	1013 (195)	...	"
江田島	寛永 7頃(1630頃) 797 (269)				"	3287 (605)	2100	江田島郷 土社会
府 中			享保 5 (1720) 2782 (708)		"	3551 (1489)	28	府中荘誌
坂	寛永15 (1638) ... (94)				"	2448 (605)	...	坂郷土誌
阿 賀			安永8-9(1779-80)3475 (759)		"	4921 (959)	52	阿賀町誌
明石方			享保 3 (1718) 462 (107)		"	1099 (228)	138	大崎南村 郷土史
沖 浦			" 503 (155)		"	884 (166)	76	"
竹 原	元禄 4 (1691) 1138 (231)		元禄16 (1703) 5350 (...)		"	5309 (1348)	0	竹原の人 口
向島東	" 1303 (210)		安永 3 (1774) 1660 (478)		"	2743 (497)	110	向島岩子 島郷土誌
向島西	" 130 (21)		宝曆 5 (1755) 2033 (728)		"	3878 (689)	140	"
立 花			" 366 (98)		"	572 (105)	265	"
尾 道			享保 5 (1720) 7031 (707)		"	9488 (2926)	35	尾道市史
栗 原	貞享元 (1684) 1453 (452)		元禄 9 (1696) 1651 (539)		"	2718 (620)	63	"
三 田			享保 3 (1718) 2581 (816)		"	3173 (...)	22	広島藩の 農村

第7図 人口の増加 (1888~1920)

免れている。一般的には人口の増加と土地開発とは殆ど無関係となり、全国的な経済構造の変化が広島県の人口増加或は減少を支配しているといえる。

大正9年(1920)以後のセンサスの完備

した時代の人口増加或は減少の地域分布についてはこゝでは省略するが、それと土地開発との関係も第7図に示されていることと略々同様であり、たゞこんどの戦争による大きな人口移動がエピソード的なものとして挿入されるであろう。

結び 個別的な集落の土地開発を研究する前提として県全体の地域をとってそれを概観した。

1 集落の成立は内陸部では中世以来のものが殆どであるが、沿岸部・島嶼部には近世以後のものが多くなる。

2 石高・耕地面積の増加より見たる土地開発の重心は近世には沿岸部に、明治期には島嶼部にある。

3 人口の増加は土地開発の進展と平行する状態から漸次商業的な要因、工業化・都市化の要因によることが大きな比重を占める状態にかわってくる。産業革命期には全国的な経済構造の変化による人口移動が人口の増加或は減少を支配する。しかし土地開発の進行する地域では第二義的ではあるが人口は増加傾向にある。

(参考文献) 西村嘉助; 広島県の火耕地名 人文地理4の3(昭27)。関山直太郎;

近世日本人口の研究(昭22)。

(広島大学教育学部助教授)

remove opposite to the above is done only as a ruler. The living standard of the burning cultivators is lower than that of the plain-farmers. Only freedom permitted there it not to be deprived of their products.

Land Cultivation in Hiroshima Prefecture

By Kasuke Nishimura

I studied the outline of the land cultivation in Hiroshima Prefecture after Edo era by the several maps. The first map: Formation of the new settlement. The second map: Increase of the cultivated land from 1619 to 1820. The third map: Increase of the cultivated land from 1820 to 1921. The fourth map: Increase of the cultivated land from 1921 to 1947. The fifth map: Increase of population from 1711 to 1816 (eastern part of Hiroshima Prefecture). The sixth map: Increase of population from 1816 (or 1820) to 1888. The seventh map: Increase of population from 1888 to 1920.

By these maps I could have got the following conclusion.

1. The new settlements developed after Edo era are distributed in the seashore and islands districts.
2. The cultivated lands increased on the seashore district in Edo era and in the islands district in Meiji era.
3. Before population had increased running with increase of cultivated lands, but recently its increase has been caused by the development of commerce and industry, and the development of cities. That is, development of economic system in Japan has caused the population movement. However, after the War-termination especially, population increase is found in those areas where the cultivated land has increased.

The Boundary of the Lake in Japan

By Masami Hayashi

1. There are two types of the boundary of the lake; that is one is what divides the lake into several parts, the other is what is monopolized by only one village or town. As the latter instance, I take the lake of Koya-